

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079100147		
法人名	有限会社 弘洋		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	〒835-0136 福岡県みやま市高田町海津1461番地2 (電話) 0944-62-6151		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 20 日	評価結果確定日	平成 26 年 3 月 26 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な共同生活の中で能力に応じ充実した日常生活が営めるように、温熱療法や機能訓練を行い、認知症の進行を予防し癒しの空間づくりをモットーに温かい支援を心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 26 年 2 月 19 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、平屋建てで田園地帯の一角に位置している。程よい広さのホールでは、職員と利用者がより身近に接しており、深いコミュニケーションがはかられている。また、利用者は職員の見守りのなか、共同作業で絵を描いたり、歌や縫物など特技を活かして日々を過ごし、洗濯たたみや食事の準備、片づけなど利用者ができることは自身で行うことで、それが良い刺激となり利用者は生き生きと生活している。加えて、2～3日毎に20分程度の温熱療法を取り入れ、手・膝・足などの皮膚を観察する機会にもなり、マッサージや保湿剤の湿布などケアにも活かされている。安心して頼れる事業所となっている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング時に、理念を復唱し日々実践している。特に、職員が利用者の笑顔を引き出せるように関わっている。	理念として、初心を忘れない・いやしの空間づくり・安定した日常生活の営み・地域との関わり・笑顔、をかかけ、ミーティング時に確認し、利用者が笑顔になれるような言葉かけや関わりをもつなど、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の方がお菓子を持参され、一緒にお茶を飲み会話する。散歩時も、挨拶や立ち話をし日々交流している。	散歩時のゴミ拾いや草取り、挨拶などで地域との関わりを持つようにしているが、地域行事等への参加は特に行われていない。事業所主催の敬老会に踊りや手品などのボランティアの訪問がある。	地域住民に事業所主催の行事への参加を呼びかけたり、地域活動へ参加するなど、事業所と地域との関係性を深め、理念に掲げられている「地域とのかかわり」の実践につなげていただきたい。
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての質問や問合せ等には、民生委員さんより質問が多くアドバイスをすることがある。地域での「いきいきサロン」に出席・参加出来るよう声かけしている。（返事待ち）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の急変・退所の報告やヒヤリハットの内容等も行い、家族代表や民生委員より意見をもらい、職員へ伝えケア向上に取り組んでいる。具体的に、消防署の方の参加時、災害時避難の考え方や、付け火や不審者への対策（人体感知ライトをつける）のアドバイスあり。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者やサービスの実際などを報告し、意見をもらうようにしている。委員から、地区行事などの報告があった際は、事業所の参加希望を伝えるなど、運営やサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や高田町GH連絡協議会議を行い、市町村の担当者の参加もある。その中で意見交換を行っている。また、入居募集時には市の包括センターへの問合せも常に行っている。	便りを持参するなど月2～3回は行政窓口へ出向いたり、電話やメールなどで運営に関する報告・連絡・相談などを行い、サービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室、トイレ、玄関等は常に開放しており、家族面会の時間も設けていない。身体拘束についての研修を行い、マニュアル作成し職員全体で学ぶ機会がある。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する内部研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。日中は玄関の施錠はせず、利用者の外出では見守りや付添いなどを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事やニュースで取り上げられる事も多く、常々話し合い、単に暴力や体罰だけでなく言葉（声かけ）や介護放棄、態度でも虐待とみなされる事があることを学んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がおられた。疑問点や制度における限界（看取り）等を確認し、その家族との意向も確認し、職員全体で認識している。後見人さんによる研修を開催して頂き理解を深めた。	権利擁護に関する制度について、利用者・家族などへ契約時に説明している。職員は、内部研修や外部研修受講職員による伝達研修にて学ぶ機会をもち、利用者・家族が制度を活用できるように支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改定時、利用料、加算の算定要件について書面にて充分説明し同意を得ている。医療費や薬代についての質問もうかがい主治医や薬局へ問合せ家族へ回答している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、ふれあい日記に自由に記入されるようすすめている。また、家族会議にて家族同士のみ話し合いができる時間をとり（職員席をはずし）意見交換されている。	利用者は、汁が冷たいから温めて欲しいなど、日常的に意見や思いを管理者や職員へ伝えることができる。家族の訪問時には意見や要望が言いやすいように言葉かけをし、利用者個別のふれあい日記に記入してもらうなど工夫している。事業所主催の敬老祭時には、利用者・家族だけの話し合いの場を設け、意見が出やすいよう雰囲気づくりにも配慮している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個々の時間でいつでも提案を聞いている。利用者数名に虫さされありの報告をうけ、バルサンを施行。その際、関連事業所の空きホールを借り、利用させてもらい送迎の手伝いもしてもらおう。	自己評価は全職員の意見を聞き管理者が作り上げた。管理者は日常的に職員に声をかけ、イベント後の反省会時には意見を聞くようにしている。アイデアを活かした四季折々のホールなどの模様替えや献立の工夫など運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修希望や資格取得希望には日程を調整し、研修費用、交通費を支払う。勤務表作成時には、希望休を出してもらい希望に沿うようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用に関しての条件の取り決めはなく、本人の意欲を大切にしている。出産予定の職員には、軽い事務や見守りを中心に仕事をしてもらい身体への負担を少なくする配置を行った。	法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたって特に条件の取り決めはしていない。配置・昇進・教育・定年・退職などにおいて差別なく誰もが安心して働ける職場環境をめざしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	園外研修を受講し、その内容を皆で回覧し情報共有する。	全職員は、人権に関する内部研修や一部職員が受講した外部研修の資料により、学習しており、利用者の人権を損なわないよう支援している。テキスト・パンフレット・研修記録などは見やすい場所に保管されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修募集や案内を示し、参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者GH連絡協議会、グループホーム管理者の集いの参加やケアマネ研修にてケアプランの作成技量を学ぶ機会や高田町の3つにGHによる意見交換や業務上で問題点や入居募集に関しての情報交換をしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初期においては、本人の苦痛としている事を取り除けるよう注意深く声かけ関わるようにしている。本人からの言葉を気にかける。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当日、身元引受人が腰痛の為、無理できないとの事で、本人迎え、荷物運びをホームで行い、布団も無い為ホームで準備する。妹さん達の面会時、ホームでの様子や状態を伝え何より本人の表情が和らぎ、ふっくらとされ笑顔が出ているので安心される。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	区分変更申請中であったが、本人、家族、病院の強い要望があり、（入院中の徘徊、不穏が多い）入所受け、主治医と連携し、排便困難、吐き気、食欲不振、発熱等への対応を行い、状態安定される。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行えるよう準備し、ねぎらいの言葉をかける。家事の手伝い、カレンダーめくり、カレンダー作り。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所時、家族の面会を制限することなく本人の状態を見て頂き、話し合い、その都度の対応をともに決定していく。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブへ行った時等、利用者の家の近所へ行くもわからない方もおられる。墓参りや自宅への外出を楽しみにされてある。	管理者や職員は馴染みの人や場について把握しており、利用者の自宅や墓参りに一緒に出かけている。職員は、家族などへ馴染みの人が利用者に会いに来てもらえるよう依頼するなど、人や場所などこれまでの関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれのADLの差や認知症の進行により、他者とのかかわりが上手に出来ず、攻撃的な口調の強い発言が出ることもあるが常に間に入りケアしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化により入院された際、家族は高齢で遠方に住んであり看取りを希望されている事を入院先の医師へ伝える。本人に前のかかりつけ医であった病院の為、家族も安心されていた。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の表情や言葉にて快、不快を読み取り原因をさぐり検討する。声かけの方法や席の移動、本人の望む暮らしを日常の会話の中で聴き取り職員間に情報共有する。	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望、意向などの把握に努めている。意志疎通の困難な利用者には、家族や関係者などから情報を得たり、表情や仕草で真意を推し測り支援をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、居宅のケアマネや家族より、基本情報、ケアプラン、アセスメント等情報収集している。また、日常会話の中でさりげなく聴き取っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアは、単にお世話するというのではなく、どの部分で手をさえれば何が出来るか、どこまでは自分でされるかを見極める。服薬は手渡ししか口の中へいれるか声かけか。トイレは声かけか、介助がどこまで必要か。パットの当て方等。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時、日々の本人に言葉や状態を把握し意向を伺い確認し、現場職員の意見も取り入れケアプラン作成している。	利用者一人ひとりに対して個別具体的な介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、個別の計画に結び付けている。3ヶ月または最低6ヶ月に1回、変化時には随時見直しを行っている。面会時や電話などで利用者・家族等へ報告し、了承の署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過、モニタリング、申し送りでの本人の課題への気づきがケアプラン作成につながっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皮膚疾患における軟膏塗布、毎日のイン、アウト、体重測定、状態変化、ヒヤリハット、食事の形態等、会議の中で利用者処遇として、話し合い統一を図る。月の途中で課題発生時は申し送り、記録の中に赤字で示し回覧している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り、敬老祭の催し物に地域のボランティアでフラダンス、手品、踊りの参加があり楽しんでいる。在宅時代に楽しみにしていた大蛇が、ホームの前まで来て入居者の喜ぶ顔が見れた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診がある。外科や歯科、眼科は家族に付き添いをお願いする。遠方にて付き添いできない利用者は、家族の希望を聞き受診支援を行っている。	24時間医療連携体制を取っており、事業所指定の主治医としているが、利用者の希望により柔軟に対応している。通院介助の方法や情報の伝達については家族などと話し合い合意しているが、家族の都合や必要に応じ、職員が介助するなど臨機応変に支援している。また、主治医の定期的な往診を受けている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴やオムツ交換時に皮膚状態の変化や本人の訴えにより、主治医や訪看時に伝える。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携室との連絡を密に行い、空所や入所問合せに対応している。医療介護の地域連携懇親会に参加し、施設患者外来待ち時間の時間短縮について問診票を頂き活用している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて入所時、敬老祭（家族会）時にて意向確認をその都度行い書面にて預かっている。急変時の退去例も示しながら、施設で出来る事に限りがあることも説明している。	看取りについて事業所の対応方針が明文化されており、入居時に説明し同意を得ている。また、家族などの気持ちの変化を考え、敬老祭時に確認の書類をもらったり、状況変化時にはその都度確認するなど、家族等の意向を尊重しながらチーム連携を図り対応している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、職員全員で手順や対応を学ぶ時間を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して、屋間、夜間、火元の確認と持ち出し品の確認を行っている。近所は、独居老人の世帯も多く協力体制を築く事までは出来ていない。民生委員や市の消防団や家族の方へ避難訓練への参加協力をお願いしている。	マニュアルを作成し、年2回昼夜を想定して避難訓練を行っている。消防署への協力依頼や地域住民への呼びかけは行っているが参加はない。非常用食料・飲料水・備品などは事業所内に準備している。	引き続き地域住民への呼びかけ等を行い、避難訓練への参加や協力体制が得られる様に、事業所への理解を深めていただけるような工夫を期待する。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と信頼関係が出来、慣れあいになり、言葉づかいも礼儀に欠けている事もある。一人の人間として、人生の先輩として、挨拶や声かけも優しく丁寧に行うようにしている。家族より苦情ありH25年6月	職員は一人ひとりの思いに寄り添い、誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけや対応をしている。また、ミーティング時や内部研修を行い、参考になる記事を読むなど、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時、気分のすぐれない方に「朝食はどうされますか？」と本人より決定してもらったり茶碗拭きやトレ拭きテーブル拭き洗濯物干しと何気なく目に付くように準備し「せやんなら持ってこんね」「私がかせするよ」と自らの言葉が出るようにし、必ずねぎらいの言葉をかける。利用者同士で声かけされて、協力しながら手伝いされるのを見守り寄添う。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日天気、体調により外へ出かけられる時は、ドライブしたり日向ぼっこ。玄関先でのおしゃべりと利用者さんの退屈な様子があると、気分転換している。その時間、居室で休んでいたり、入浴中、新聞をみている人テレビを見ている人と個々の楽しみな時間を過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月ぶ一回訪問カットがあり、利用者本人の希望でカラーをされる事もある髪型も短すぎず個性にあったカットされる。洗面台の前でくしでとかす方もいれば、介助が必要な方もおられる。くしを常にバッグの中に持ち隣の利用者のヘアーを整えて下さる利用者もいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を共に考えたり、頂いた野菜の料理法を教えられる事もあり、共に職員も食事しながら、さりげなく嚙下の確認やテーブルセッティングをしたりメニューの話題や昔の食事はどうだった・・・とゆっくりくつろぎ片付けも共に行う。	嗜好調査をして献立などを話し合い、塩分控え目で栄養バランスに配慮した食事を、利用者と職員は同じテーブルで一緒に食べている。玉ねぎの皮むきなど準備や片付けなども共に行っている。食材の野菜の話などをさり気なくして、楽しい食事になっている。誕生祭にはお赤飯を用意している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の測定や排便を促す為の朝の牛乳お茶は吐き出されるが、コーヒーは好まれる方、熱いお茶がいい方、個々の状態に合わせて一日1500CC位を目安に飲んでいただいている。食事も摂取量のチェックと体重測定を2回/月行い主治医より血液検査の結果でのアドバイスがある。(貧血、脱水、カロリーのあるもの)		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ食後の口腔ケアを進めている。全介助で嚥下不安の利用者にはお茶でうがいをしてもらう。就寝前には部分義歯を外してもらいコップの水についておく。歯周病にて歯茎の後退のある方はデンタルリンスを使用されている。(家族の要望にて)		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後のトイレ誘導は、時間で声かける。夜間オムツ使用でも日中は布パンツ+パットで過ごせる方もいる。トイレの訴えのできない方は、不安な様子やズボンの後を下げるそぶりがあつたりするとさりげなくトイレ誘導する。	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、排泄サインを見逃さず誘導している。個々に適したパット等を使用し、失禁の際は周囲に配慮しながら迅速に対応している。介護度がやや高い場合でも職員は双方から支え合い自立支援を図っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い起床時の冷たい牛乳摂取やホールでの体操、個別にホール内歩行食事の献立に繊維質のゴボウ、ひじき、野菜を多く取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の体調バイタルにて、一日三名位をゆっくり入っていただけるようにしているが、夏の暑い時は、シャワー浴でも満足されるが冬場はゆっくり午後に入りたいと要望があり、日中の職員が三名居る時間帯になっている。(重度化により2人介助も必要となっているため)	週2~3回、1日4~5人の入浴となっているが、希望があれば毎日の入浴は可能である。入浴拒否の場合は、時間や職員を変え、タイミングを図りながら入浴支援を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により起床時間も遅くなる方もいれば、昼食後は下肢のむくみがあるため、足上げもかねてベッドにて休まれる人もいる。昼寝の習慣がない方もいる。また、就寝時間も19時には「やすみます」と毎日同じ時間に就寝される方もいれば、口腔ケア、パジャマに着替えているけど21時までテレビを見たい方は職員と共にホールで見られている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の記録のファイルの中に薬の説明が綴じてあり、いつでも確認できる。また下剤と排便の確認や頓服については、その都度申し送り時に説明し、一日の記録の中に赤字で示して共有をはかっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズル、写し絵、塗り絵、散歩、体操等その個人にあった楽しみを提供している。カレンダーめくり、三味線、計算、言葉遊び、歌、すごろく、ビーチバレー		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の要望もあり、墓参りや自宅外出、通院と家族共に外出されています。外出時の様子や状態の変化等を伺う。(その後のホームでの不安の訴え、不眠、不穏となる事がある)	天気や利用者の体調、希望に応じて、近くのお宮詣りに毎日出かけたり日光浴を行っている。また、藤の花見や紅葉狩り、栗の実拾いなどヘッドライブに行ったり、年1回の温泉行きでは外食を楽しむなど、外出の支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バッグの中にお金を入れてある方はいる。金額を家族確認のうえ控えている。「養命酒や〇〇を買ってきて」とお金を出したり職員の結婚の御祝として、何度も渡される時は、預り、家族に渡している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、要望がある時は家族に電話をつなぐ。またノートに書き留めたいことがあると、要望があるときは、ノートに自由に記入されている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	腰の曲がった利用者の目の高さにトイレの表示をしている。ホール壁には、手すり部分がよくわかるように色目をつけたり、他者の排便後は匂い消しの使用ホールは常に湿度、気温、室温計にて確認し、エアコンを使用したり、冬でも短時間窓を開け風を通し換気を促す。	手触りの良いテーブルと椅子がフロアにほどよく置かれ、利用者と職員の明るい声が聞こえる。梅と水仙の花が活けられるなど季節感があり、利用者が描いた赤富士山や虎の絵が掲示されている。また、利用者と職員の合作品もあり和みがある。職員の声のトーン、明るさ、温湿度も適正で臭気なども無く、居心地よい配慮がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや玄関先、事務所に机と椅子があり、時には一人の時間を過ごせるよう提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間の行動がある人やトイレ使用時の動きでタンスの位置を変えている。家族面会時、本人より希望にて持ち込みがある。(時計、風呂用タオル、軽い布団)	居室の入口には防災時の頭巾が掛けられ、利用者への配慮がうかがえる。利用者の馴染みの寝具や家族写真、衣装かけ、時計、カレンダー、お化粧品などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体がバリアフリーでホールには手すりがついている。シルバーカーの使用や避難通路として歩行障害物がないように開けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない